

平成31年度
事業計画

社会福祉法人 ふらっと

社会福祉法人ふらっと 基本理念

1. 私たちは、ノーマライゼーションの理念や、ユニバーサルデザインの考え方を大切にし、全ての市民が住みやすい福祉社会の実現に向かって努力します。
2. 私たちは、あらゆる障害をもつ人々の「自立」や「地域生活」を応援します。
3. 障害当事者が当事者をサポートするイメージを大切にし、運営する施設の職員や相談員、介護スタッフも「できる可能性」を最大限追及し、前面に押し出しながら雇用の場も創出します。
4. 私たちは、松江市内に限らず、広域行政を意識しながら在宅支援のネットワーク化を図ります。

はじめに

2019年度は、平成から新しい元号に移り、新しい時代がはじまる年度となる。その中で、将来像をイメージしながら安定経営を目指し、法人全体の目標を「あらゆる関係性において良好な関係を築くこと」として、今年度取り組むこととする。

障がい者、家族、職員、事業所、行政、事業顧客、地域住民等あらゆる関係性を良好な状態に築くことで、法人の発展はもちろん、障がい者を含む地域住民の地域生活がより充実していく状況を作り出していきたい。

障がい者ニーズも多様化し、就労分野では一般就労する、あるいは一般就労を目指す人は、業種選択の幅も含め増加している。就労支援施策も、中央省庁等の雇用水増し問題等課題も多いが一般就労を推進しており、一般企業の障がい者雇用機会も増加していることもあり、さらに推進されていくだろう。

しかし、一般就労が困難とされている障がい者が働く就労継続支援事業所へのニーズもまだまだ多い。障がい者の地域生活を充実したものにするためにも重要なものでもある。

特にA型事業所の障がい者は、雇用契約を結んで働く従業員として事業を推進する上でも貴重な人材であり、働く環境においては、可能な限り企業同様の関係性やキャリアアップの仕組みを作り出していく必要があると考える。ふらっとは、その成り立ちからも障がい者の主体性を育みながら、地域に必要とされる事業を共に発展させ、継続して働ける環境を充実させていく必要がある。障がい者が誇りを持って働く場として、将来に希望の持てるよう充実させていく。

そのような環境を充実させていくためには、支援に携わる職員も、貴重な人材として専門性を高め、支援力を磨いていく必要がある。障がい者の地域生活を推進していくためにも、同じ地域住民であることはもちろん、共に事業を発展させていく法人の一員として向き合い、自然な関係性を築きながら、障がい者の活きたい思いを支え、共に地域に貢献できる人材、社会に浸透させていける人材として成長してほしい。

法人としても将来に向けて、自ら行動していける高い意識を持つ次世代を担っていく人材を育成していく必要がある。研修機会や他法人との交流機会を設けながら、地域と連携した取り組みも増やしたい。地域の課題を障がい者と共に考え解決していくことにより、結果的に地域に必要とされることになり、障がい者の活躍の場に繋がるはずである。職員一人一人の目標を明確にししながら、個人やチームで取り組むことに自信や誇りを持てるように人材育成を進めていく。

働き方改革が叫ばれる世の中になり、各分野で人手不足が課題になっている。法人としても人材確保には苦慮しているが、処遇改善に取り組むことで課題を少しずつ改善している。国も処遇改善加算費のさらなる充実を行うが、法人の負担も伴うこともあり、一概に取り組むことが難しい部分もある。可能な限り引き続き処遇改善に積極的に取り組み、充実した体制強化を図りたい。事業所間のギャップの是正についても、可能なことから取り組みながら公平性を高めていくと共に、適材適所の人事が可能な状況にしていく。

また、支援業務、事業活動業務の責任分担を明確化させる。個別支援の充実と就労事業収入の安定増収を同時に推進するには、体制の充実と役割分担の明確化が必要と考えたからである。十分な体制構築には課題もあるが、明確化することで成果が出ることを期待する。

昨年、ビストロ庵タンドールは2箇所の販売所を閉店し、一ヶ所に集中し立て直しを図ることとした。また、ピー・ター・パンの多機能化としてB型事業所ハブラボを開始した。どちらの事業も法人の重要事業の一つである。障がい者の可能性を引き出しながら事業を充実させ、より地域に溶け込んでいく事業となるよう様々な取り組みを通じて充実させていく。

障がい者ニーズの多様化は、就労分野に限らない。個人個人の生活スタイルは異なっており、当たり前だし、サービス利用についても同様に様々なニーズがある。地域生活を望む障がい者がそれぞれの地域生活を実現し、充実したものにするためには、様々な課題がまだまだある。地域移行、共生社会の実現等の言葉は使われるが、入所施設利用者は知的障がい者で5人に一人、身体障がい者で50人に一人などと、まだまだ多い。公営住宅やグループホーム等の整備が追いついていないことも要因の一つである。また、高齢になった障がい者が介護保険の対象となり、地域生活の維持が難しくなってくることもある。実際ふらっとでも、年齢を重ね、両親も高齢になり、今後の地域生活をどのように考えていくか、といった課題も表面化してきている。

このような課題に対しても、相談支援事業等を通じて情報を集め、分析しながら、必要なサービスが充実するように、障がい当事者や福祉関係者だけでなく地域と連携した取り組みを実現していきたい。障がい者も地域住民として、地域課題の解決に向けて前向きに取り組んでいければ、障がい者の地域生活拡大も進みやすくなるだろう。法人としても取り組みを支えつつ、就労分野に限らず新たなサービスの開発にも目を向けていきたい。

経営状況はいまだ厳しい状況にあるが、障がい者の地域生活を充実したものにするためにも、地域福祉の発展のためにも、法人全体で地域に必要とされる取り組みを実行していき、改善を進めていく。

社会福祉法人 ふらっと
理事長 新田 裕之

法人本部

1. 法人本部の目的

社会福祉法人ふらつとが、社会貢献を実践するために、法人本部が担える役割を追求する。

法人の持続可能な経営が盤石なものとなるよう、計画的な経営を推進するために、適時・適切な会計業務の整備を、基幹的業務として担う。

また、時代の変化に対応した環境整備として、フェアで透明性の高い労務管理を行いながら、全職員の成長につながるよう高度な情報提供と事務処理を行う。

2. 目 標

(1) 長期目標

- a. 職員一人ひとりが様々な場面で自立的に考えて業務にあたり、全員の力が一つになった地域No.1の法人
- b. 福祉に関わる誰もが「いつかはふらつとで働きたい」と思ってもらえる法人、職員にとって働きやすい法人

(2) 中期目標

- a. 職員に対する法人および各事業の理念の浸透
- b. 次世代幹部職員及び管理職の育成
- c. 社会福祉法人たる事業の実施
- d. 法人内情報システムのあり方の検討

(3) 本年度目標

- a. 本部機能の充実
 - ① 本部機能の見直し（内部統制を含む）
 - ② 業務分担の見直し
- b. ムリ・ムダ・ムラの削減
 - ① 本部における改善
 - ② 各事業所への改善提案・指示
- c. 年間スケジュールに基づいた業務の実施
- d. 計画的な資金繰り
- e. 各事業所の積極的な補助金・助成金活用の支援

3. 重点項目

(1) 課題解決

a. 抜本的改革のための施策

① 収支の適正化のための、目標に対する実績の管理と周知

具体例) 戦略会議における試算表、統括会議における収支報告書 等

② PDCAサイクル(計画・実行・評価・改善)の実行

具体例) 本部ミーティング(振り返り)、共有スケジュール表 等

b. 改正社会福祉法、総合支援法改定等への対応・コンプライアンス(法令遵守)

c. B型事業の経営安定化

(2) 人材育成

a. 適正な人員配置に関する助言

b. 次世代幹部職員育成のための研修の実施・派遣・勤務調整

(3) 予算

a. 設備支出

① 更新 … 事務員増員対応 PC 1台 120,000円

② 買い替え … 予定なし

③ 修繕 … 特定の予定なし

4. 実施事業

(1) 規程・規定の見直し

危機管理マニュアルを整理し、施行できるようにする。

(2) 理事・評議員会および監査

a. 評議員会 年1回

b. 理事会 年6回

c. 法人監事監査 5月

d. 内部監査 1月

(1) 職員会議

a. 戦略会議

法人運営を安定的、発展的に行うために、人事、経営戦略等を意思決定する。

b. 統括会議

法人や各事業所の状況報告や課題提出を受け、連携して事業ができるように忌憚なく話しあえる会議にする。

c. 全体会議

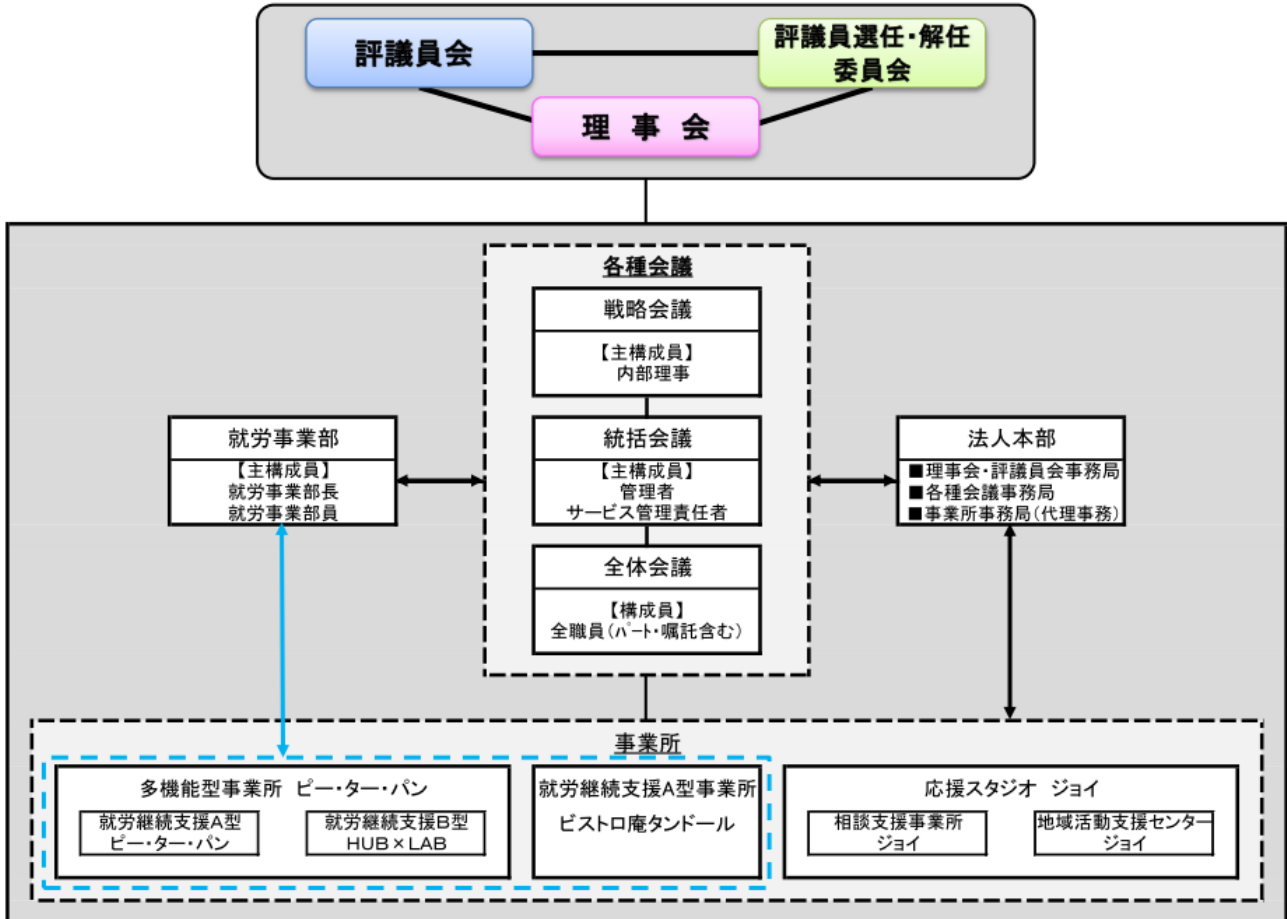
法人の運営方針を直接全職員に伝える機会である上、現場での気付きを共有し合える場を持つ。

5. 年間スケジュール

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・松江市障がい者雇用支援事業費補助金実績報告（確定） ・退職金共済更新、掛金納付（4月中）⇒WAMNET ・事業報告書作成（～5月上旬） ・介護給付費等算定に係る体制等に関する届出書 ・最賃除外許可申請（5月23日までは有効） ・地域活動支援センター決算書（案）提出（松江市）
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・監事監査 ・賃金（工賃）実績報告（島根県） ・消費税支払（5月末）
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・松江市障がい者雇用支援事業費補助金申請 ・財務諸表電磁開示システムによる情報公表（現況報告書、財務諸表） ・理事会及び定時評議員会（決算、事業報告） ・総資産額の変更届（法務局：6月末〆切） ・ビストロ庵タンドール腸内細菌検査
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・処遇改善加算実績報告（島根県） ・労働保険年度更新の申告（7/10頃締切） ・被保険者報酬算定基礎届（健康保険・厚生年金保険） ・36協定締結（労働局） ・高年齢者、障害者雇用状況報告（厚労省） ・障害者雇用納付金制度 報奨金申請 ・公益法人等の損益計算書等（税務署：7月末）
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・いきいきプラザ報告書（8/31〆切） ・夏季休業（8/13～8/15）
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保険料率改正 ・理事会（第1次補正予算）
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・最低賃金改定 ・地域活動支援センター決算見込（松江市）
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・年末調整（控除申告書の配付）
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・年末調整（最終支払給与及び年税額算出） ・理事会（第2次補正予算） ・仕事納め（12/27）
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事始め（1/6） ・法定調書（税務署）、給与支払報告書（各市町村）の提出 ・次年度の健康診断予約開始（生協病院） ・ビストロ庵タンドール腸内細菌検査
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・処遇改善計画書（島根県） ・内部監査 ・事業計画作成
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・松江市障がい者雇用支援事業費補助金実績報告（事前） ・理事会（予算、事業計画、第3次補正予算※必要な場合のみ） ・たな卸し

6. 組織図

社会福祉法人 ふらっと 組織図



多機能型事業所 ピー・ター・パン

就労継続支援A型事業所 ピー・ター・パン

1. 目的

地域社会に根差し、その社会に貢献していける事業所を目指す。

柔軟な仕事作り、個別支援の充実を図っていく。また従業員の人材育成に力を入れ、その体制を作っていく。

2. 目標

(1) 支援事業

- a. 長期目標 … 地域に溶け込み働くことを通じて社会とのつながりを実感できる支援を目指す。
- b. 短期目標 … 将来像を見据えた個別支援計画の見直し。

(2) 就労事業

- a. 長期目標 … 収益黒字化をめざし、利益率の高い新規事業を考察する。
- b. 短期目標 … 利用者の増員を図り、安定継続して事業展開出来る体制を作る。

3. 重点項目

(1) 増員の取り組み

a. 人材育成の確立

- ① 技術習得研修や自己理解、自己実現に向けた研修機会を整備していく。
- ② 委託訓練で有能な人材を育て、雇用へと結びつける。

b. 仕事内容の充実

- ① 従来事業の拡充の他、地域に出向いて行う講演活動、地域ニーズに合わせ、新たな事業や、仕事づくりを進めていく。
- ② また、近い将来、新規事業として取り組む可能性のあるものの調査・企画をはじめていく。

c. 関係機関への周知

関係機関への訪問を積極的に行い、連携した取り組みを行いながら、関係性強化に繋げていく。

(2) 支援の取り組み

a. 研修機会の充実

- ① 福祉、支援に関する研修を必須項目に、障害理解やコミュニケーション、虐待防止、権利擁護、事例検討等、個別支援に関する研修に各自年に1回以上の参加
- ② 外部講師を招いての内部研修、事例検討会開催、面接指導、ビジネスマナー等一般就労へ向けての研修

b. 評価の数値化、可視化

利用者のスキル、職員自身の支援スキルに関するもの（自己チェック等）

c. 支援計画の具体化、実行

面接、見学時におけるサービス管理責任者同行支援

d. 外部機関との連携強化

相談機関、ハローワーク、医療機関、教育機関等との連携強化を図っていく。

4. 予 算

(1) 売 上

a. 売上目標 6,600万円

【内訳】	
D T P	4,400万円
マテリアル	2,200万円
その他新規事業	

b. 収益確保の取り組み

スサノオマジックのブースターは増えてはいないが、物販の売上は延びている。これによりチームからの案件受注を継続して取り組む。

一方で官公需に関しては、優先調達法の効果で見積り案件は増加傾向にあるが、他のB型事業所との価格差が著しく必ずしも成果に繋がっていない。今後全国的な課題となる可能性もあり、動向を見ながら対応していく。

営業力強化を図っていくため、従業員の営業視点の研修機会を設けながら、顧客サービスの充実を図っていく。

新規事業への展開も地域に必要とされるサービスの準備を進めていく。

出来ること、得意なことを商品化することにより、収益増をねらう。

① 製作時のロスを徹底的に削減

印刷に関しては、指示書確認不足による印刷枚数の間違い、内校ミスでの誤刷など。ウェアプリントでは難易度が高くロスが予想される案件については外注。

製作時のミスに関しては、各部所に責任者を配置するなどして工程チェックを徹底。

② 外注費削減

内製不可案件については印刷会社の協力を得て、通常価格より安く仕入れ外注

費を落としている。マテリアル製品については、設備整備が整い、特殊素材へのプリント以外は内製可能になっている（難易度の高いモノは除く）

③ 営業範囲拡大で売上増

c. 営業戦略

- ① スサノオマジックのブースターは増えていないが、物販の売上は延びている。これによりチームからの案件受注を継続して細かく利益確定させる。
- ② あいサポート研修を受講する企業、団体を増やす
- ③ 郵便局との取引拡大
- ④ 外注先の営業マンに当事業所の設備と製品をPRし、印刷やウェアプリントの注文増。営業人員不足を補うため今後も各方面と交流を持ち案件を取る
- ⑤ インクジェットプリンターやシルク機器導入でノベルティ用品にオリジナルプリントが可能になった。ギフト店やメーカーへの商品提案
- ⑥ ウェアプリントに特化することで、迅速なイメージ案の提供やサンプル提出など、他社ができないことで差別化を図り受注を増やす。県央、県西部への営業活動
- ⑦ しまね故郷名刺を細かく各圏域用に計画する
- ⑧ 新規開拓と既存客のリピート率を上げるのにDMを活用
- ⑨ 養護学校、福祉事業所などへの積極的な商品提案
- ⑩ 優先調達推進法の徹底を関係機関へ図り、確実に売り上げにつなげる
- ⑪ WEBによる情報発信。
- ⑫ 地元アーティストの作品を商品化し販売
- ⑬ ピー・ター・パンでのものづくり体験を通して、地域住民とのかかわりを強め福祉への理解を深めてもらう

(2) 支出

a. 販 促

スサノオマジックスポンサー料	486,000円
各団体などへの加盟料(レガッタ協賛金、スサノオ後援会費ほか)	150,000円
販促物製作料	300,000円

b. 設 備

PC買い替えとOSのアップグレード	360,000円
-------------------	----------

(3) 人材育成

- a. 各種研修会への参加

5. その他

(1) 会議

- a. 現場職員会議…毎週1回（現場作業・利用者情報等、共有確認事項）
- b. 個別支援会議…毎月1回（個別支援の情報共有、支援計画の見直し）
- c. 小グループでの定期ミーティング、課題解決等

(2) 主な年間行事

- a. 健康診断（年1回）
- b. 防災訓練（年2回）

6. 年間スケジュール

4月	避難訓練 GW 休暇
5月	GW 休暇 故郷名刺改訂
6月	
7月	
8月	夏季休暇
9月	
10月	避難訓練 スサノオ開幕
11月	年賀状受付開始
12月	冬期休暇
1月	冬期休暇
2月	
3月	

就労継続支援B型事業所 ピー・ター・パン（HUB*LAB）

1. 目的

「どんなに障がいがあろうと働く喜びを感じ、人との関わりの中で成長していける場であること」を大切に、一人一人が、社会の一員であることを実感出来ることを目指す。

柔軟な仕事作り、個別支援の充実を図っていく。また従業員の人材育成に力を入れ、その体制を作っていく。

2. 目標

(1) 支援事業

- a. 長期目標 …… 地域に溶け込み、社会とのつながりを実感できる支援を目指す
- b. 短期目標 …… 将来像を見据えた個別支援計画の見直し

(2) 就労事業

- a. 長期目標 …… 収益黒字化をめざし、利益率の高い新規事業を考察する
- b. 短期目標 …… 利用者の増員を図り、安定継続して事業展開出来る体制づくりを行う

3. 重点項目

(1) 障がい者支援

障がい者支援地域において障がい者の主体性を大切にしながら、より利用者ニーズに向き合い、目指すべき事業展開や仕組みについて新たに構築していく。利用者の働きたい思い、活きたい思いを支え、共に思いを実現していける場とすることを目指す。そして、安定継続して事業展開できる体制づくりを進めていく。

(2) 増員の取り組み（定員10名）

a. 個別支援の質の向上

利用者が安心して契約・サービス利用できるよう、当事者に寄り添った個別支援計画を立てる。働くことによる社会参加の実感を得る、生き生きとしたライフスタイルを提案する。

b. 仕事内容の充実

A型事業との連携を密にし、取引先企業からの請負作業を皮切りに、より高い工賃支給を目指して仕事づくりに取り組む。

c. 関係機関への周知

関係機関への訪問を積極的に行い、連携した取り組みを行いながら、関係性強化に繋げていく。

(3) 支援の取り組み

a. 研修機会の充実

福祉、支援に関する研修を必須項目に、障害理解やコミュニケーション、虐待防止、権利擁護、事例検討等、個別支援に関する研修に各自年に1回以上の参加。

b. 評価の数値化、可視化

利用者スキル、職員自身の支援スキルに関するもの（自己チェック等）

c. 支援計画の具体化、実行

d. 外部機関との連携強化

相談機関、医療機関、教育機関等との連携強化を図っていく

4. 予算

(1) 売上目標 130万円

a. 収益確保の取り組み

当面、A型事業の取引先企業からの仕事の切り出しを主として取り組む。利用者確保の進捗度合いによって収支が左右されるため、バランスを取りながら仕事の切り出しを行っていく。

b. 課題

- ① 利用者数と案件数のバランス調整（ムリ・ムダ・ムラの排除）
- ② 優先調達案件の受注
- ③ 島根県障がい者就労事業振興センター等との連携

5. 年間スケジュール

4月	GW 休暇
5月	GW 休暇
6月	
7月	
8月	夏季休暇
9月	
10月	
11月	
12月	冬期休暇
1月	冬期休暇
2月	
3月	

就労継続支援 A 型事業所 ビストロ 庵 タンドール

1. 目的

飲食店として、地域に根差した場所として「行きたいお店」、「働きたいお店」となるよう、常にバリアフリーであり続ける努力をする。社会にも「働く感動」を与えていく。

2. 目標

(1) 支援

a. 長期目標

「飲食店で働きたい」スタッフに社会の一員として、自信と誇りを持って生き生きと働けるよう支援していく。

b. 短期目標

個々の可能性を活かし、自分の役割を見つけ、育てることが出来る環境作りをしていく。

(2) 就労事業

a. 長期目標

家族や友人、職場等、親しみやすいメニューで、お一人でも団体様でもあらゆる用途でご利用いただける工夫をしていく。

b. 短期目標

春 : 歓送迎会メニュー、5月の7周年イベント

夏 : ビアホールメニュー

秋 : グランドメニューリニューアル

冬 : Xmasディナー、忘新年会コース、お年玉企画 (¥2020コース)

3. 重点項目

(1) 課題解決

a. レストランとしてのグレードアップ

入りにくい店舗イメージが軽減出来て、平日の新規のお客様の来店率は上がっている。しかし、ドリンクが伸びず単価は低い。セットメニューやデザート、コースメニュー等で単価を上げる工夫をする。

これまでの単品おつまみメニューでも、お酒のお客様の来店は変わらずあるので、酒メイン、食事メインのどちらにも対応出来る店舗運営をしていく。

b. 団体客の新規、リピーター確保の強化

週末の団体予約の減少を感じている。

季節ごとのパーティープランやイベント等のリピーターもいるが、新たな試みで新規獲得を強化する。（食べログ等グルメサイト利用、のどぐろやカニなど山陰らしいメニュー）

c. 原価率を低下させ利益率UPを図る

- ① 食材原価をベースに、日々の消耗品、ランニングコストの見直しをスタッフ間で意識統一を図る。
- ② 食材の保管のしかた、過剰在庫を見直しロスを減らす。

(2) 予 算

a. 売 上 …… 年間売上目標 3,300万円

【内訳】

ランチ	660万円
ディナー	2,200万円
イベント	220万円
弁当	220万円

b. 支 出

① 設備修繕 …… ソファ席等修繕費 15万円

② 販 促

(a) 7周年イベント費用 10万円

(b) 媒 体

■ 食べログ …… 15万円（月2万5千×6ヶ月）

■ 山陰中央新報 …… 7万円（3万5千×2回）

■ SNS

(2) 人材育成

a. スタッフ間でのコミュニケーションの強化

b. 役職、ポジションの仕事内容の振り分け

c. 福祉、飲食店のどちらのサービスも強化

d. 研 修 …… 社会福祉協議会等の研修に積極的に参加する。

e. 会議・ミーティング

① 職員会議 …… 毎月1回

② 個別支援会議 …… 年2回以上

③ 現場ミーティング

4. 実施事業

(1) 事業所内外

- a. 健康診断（年1回）
- b. 防災訓練（年1回）
- c. 腸内細菌検査（年1回以上）

(2) 利用者

レクリエーション（食事会等）

(3) 顧客

7周年の案内、忘新年会の案内、年賀状のDM送付のための顧客管理を積極的に行う。（飲み放題会員取得、ランチカード会員取得等）

(4) 各団体

- a. スサノオマジック会場販売
- b. 各種イベント物販

5. 年間スケジュール

月	イベント等	販促
2019.04月	春コース	
5月	7周年イベント	
6月	梅雨のスタミナコース 腸内細菌検査	ビアホールDM
7月	ビアホールプランコース	
8月	ビアホールプランコース	
9月		
10月	グランドメニュー変更	忘年会DM
11月	忘年会コース	
12月	忘年会コース、クリスマスディナー	年賀DM
2020.01月	新年会コース、お年玉企画 2020 腸内細菌検査	
2月	お年玉企画 2020、もつ鍋企画 バレンタインランチビュッフェ	
3月	春コース、防災訓練	

地域活動支援センター ジョイ

1. 目的

障がい者が気軽に集う場として事業を推進する。地域との繋がりを大切にしながら、誰もが楽しめる場所とする。

2. 目標

(1) 長期目標

障がい者が地域との繋がりをもちながら充実した地域生活を継続しておくことができるよう、様々な活動機会を創出していく。

(2) 短期目標

健康維持と文化的活動を軸に、障がい者当事者が主体的に地域生活の充実に必要な機会や環境づくりを地域住民と共に考え、活動できるようにする。

3. 重点項目

(1) 課題解決

- a. 地域との連携により各種教室や文化的活動等を企画し、利用者の増加を図っていく。
- b. 障がい者当事者が主体的に地域生活の充実に必要な機会や環境づくりを地域住民と共に考え、活動フィールドを広げることができるよう設備や環境を整えていく。
- c. 地域生活における意識調査の実施

(2) 予算

- a. 活動支出 …… 教室講師謝金 240,000円 (@20,000*12ヶ月)
- b. 設備支出
 - ① パソコン設備更新 (中古対応)
 - ② 研修用ソフトウェア、タブレット、モニター等の導入検討
180,000円 (@15,000*12ヶ月程度で検討)

4. 実施事業

- (1) パソコン教室
- (2) 健康維持活動（体操教室毎週木曜日開催）
- (3) 各種教室や文化的活動企画（アクセサリー作り、地酒マイスター、味噌作り体験会等）
- (4) 障がい者による情報収集・発信（他事業所連携による企画の実施）
- (5) 障がい者や障がい者団体諸活動の支援
- (6) みんなの地域生活課題を考える機会の創出

相談支援事業所ジョイ

1. 目的

障がいをもちながらも、住み慣れた地域で、当たり前前の生活が送られるように、地域で共に暮らす生活者として支援する。対象者がもっている強みや力を活かし、本人があらゆる関係者と適切なつながりをもつことができる関係性の構築を支援する。

2. 目標

(1) 支援

a. 長期目標

平成33年度松江市基幹相談支援センター立ち上げに向けて、関係者と協議しながら、相談支援事業所ジョイとしての役割を明確にする。

b. 短期目標

- ① 3名の相談支援専任体制のもと、意見交換や事例検討等をしながら、支援のあり方の確認や見直しを図り、対象者一人ひとりのより良い生活に向けてチームで支える。
- ② 研修会に積極的に参加することで自己研鑽に努め、相談員のスキルを高める。また、他機関との意見交換を通して、他職種の役割を理解し、関係性の構築を図る。
- ③ 松江市相談支援専門員協議会連絡会の参加やサポートステーション絆の当番に当たる中で、他の相談員と情報交換や顔の見える関係を築く。

3. 重点項目

(1) 課題解決

a. 役割分担

- ① 松江市の障がい者相談支援事業の委託を受け、相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うとともに、虐待の防止及びその早期発見のための関係機関との連絡調整その他権利擁護のために必要な支援を行う（総合支援法に規定する基本相談業務）。また、サポートステーション絆からの派遣を受け、ローテーションを組んで基本相談支援を行う（月2～3回）。
- ② 月1回開催される松江市相談支援専門員協議会連絡会に参加し、相談員相互の交流を図り、関係機関との連携を密にし、相談員の資質向上と専門性の確立を図る。共に地域で暮らす者として、相互に安心して暮らせる地域社会の実現に寄与する。
- ③ 3月末で退職する相談員からの引き継ぎケースについては、対象者のこれまでの生活の質が維持できるように努める。引き継いだ相談員は対象者との新たな関係を築くように努力する。

- ④ 平成30年度より業務負担に応じた加算（サービス担当者加算、サービス提供時モニタリング加算等）が新設されたことに伴い、計画相談支援の基本報酬については一定程度引き下げる報酬改定が行われた。ただし、新単価については、施設入所者等及び新サービス利用者のみ平成30年度から、それ以外のサービス利用者については平成31年度から適用であるとの経過措置がとられた。平成31年度からは新単価の設定、合わせてモニタリングの標準期間の見直しが実施されるため、質の高い支援の実施、すなわち適切なモニタリング頻度の設定や相談支援の専門性の業務を確実にやっていく。

（2） 予 算

a. 相談支援給付費収入

- ① 計画相談 680万円目標（各相談員の持ち件数を増やし、利用者のニーズや事業所体制維持に努める。）
- ② 松江市障がい者相談支援事業委託料 270万円
- ③ サポートステーション絆委託料 24万円
- ④ その他（IIJエンジニアリング相談等） 2万円

b. 設備支出

- ① 新 規 …… 公用車 150万円（リース等検討）
- ② 更 新 …… パソコン、福祉見聞録
- ③ 買い換え …… 未定
- ④ 修 繕 …… 未定

（3） 人材育成

a. 研 修

- ① サポートステーション絆主催の研修会（関係機関との意見交換会、アセスメント力向上事例検討会等）への参加（2カ月に1～2回程度）
- ② 松江市研修推進チーム主催の研修会への参加（平成31年度下半期予定）
- ③ 島根県相談支援専門員協会主催の研修会への参加（2カ月に1～2回程度）
- ④ 松江市相談支援専門員協議会主催の研修会への参加（連絡会開催時に合わせて開催予定）
- ⑤ その他、専門性を高めるための各種研修会への参加

b. 会議・ミーティング

- ① 毎朝の朝礼時に、1日の予定を確認する。スケジュールについては各相談員がパソコンに入力し、共通で閲覧できるようにする。
- ② 2週間に1回、事業所にて定期的に事例検討会を開催する。
- ③ 4～6月、週1回、ケースについてのスーパーバイズを受ける機会をもつ。7月以降は未定。
- ④ 事業所内で情報を常に交換し、互いの支援の確認や見直しを行う。

4. 実施事業

(1) 事業所内外

- a. 松江市障がい者相談支援事業の受託（障がい者相談支援、サポート絆運営）
- b. 指定特定相談（計画相談支援、基本相談支援）
- c. 指定一般相談（地域相談支援）

(2) 利用者

- a. 本人の希望や夢を尊重し、それに向かって応援する支援者としての役割を自覚する。本人が人生の主人公であり監督者であることを理解する。
- b. 本人の語っていない生活、見えていない生活を想像し、共に地域で生活する者として尊重する。
- c. 障害あるなしに関わらず、本人のこれまでの人生に敬意を払い、本人の強さや力を信じる。

(3) 各団体

- a. 関係機関との情報交換。
- b. 対象者の声を聞いたり、当事者同士のつながりをつくったりしながら、必要に応じて行政等へ働きかけを行う。
- c. 公民館等の地域に出かけ、相談支援事業所の役割を伝えたり、地域の方の声を聞いたりして、共に地域をつくる。

5. 年間計画

年間を通して特に予定はありません。